

フレンドリー FRIENDLY



“笑顔”で再会!!



第11回大垣市小・中学生 中国・邯鄲市派遣 (8月17日～8月24日【8日間】)



干杯 (かんぱーい)!

半日中国の家庭を訪問。出発前に覚えた中国語や英語を使って、交流しました。一緒に料理をしたり、ゲームをしたりして楽しい時間でした。

4年ぶりの訪問を待ち望んでいた邯鄲市のみなさんから温かく迎えていただきました。



さすが中国は強かった!

中国の学生と卓球対決!

太極拳発祥の地「広府城」で太極拳の体験



第9回大垣市中学生 ベルギー・ナミュール市 派遣団員出発式

(9月15日～9月24日【10日間】)

ベルギーでは、ホームステイが楽しみです!



9月3日に出発式を開催し、石田市長ほか市の関係者に、出発のあいさつをしました。



第5回大垣市高校生アメリカ合衆国 オレゴン州ビーバートン市、ユージーン市 派遣団員研修

(10月12日～10月20日【9日間】)

ビーバートン市在住のリサさんからアメリカのことをいろいろ教えてもらったよ!



英語学習やユージーン市の高校訪問で行うプレゼンテーションの練習など、出発前に5回の研修を行っています。

コロナ禍で、令和2年度以降中止していた「フレンドリーシティ交流事業」が再開されました。8月に小中学生が中国・邯鄲市を、9月に中学生がベルギー・ナミュール市を訪問しました。10月には高校生がアメリカ合衆国ビーバートン市、ユージーン市を訪問します。また、9月末にはドイツ・シュツットガルト市の高校生グループが大垣を訪問されます。待ちに待っていた「笑顔」での再会がようやく叶いました。派遣事業の詳細は3月号で報告をします。どうぞ楽しみに。

No.96
2023
SEPTEMBER



国際理解ワークショップ ～ベラルーシ～

8/20(日)スイトピアセンター 料理実習室 参加者:11人

大垣地域には世界の様々な国出身の方が在住しています。地域で暮らす外国人の出身国の食文化紹介を通して、日本人と外国人が交流するイベントを令和5年度は2回行います。

第1弾は、ベラルーシ出身で地域在住のヤルモレンカ・シゲモト・カツアリナさんを講師に迎え、ベラルーシの紹介と「ベラルーシのクレープ」作りに挑戦しました。日本人5人・ブラジル人5人・ベトナム人1人が参加し、シゲモトさんと会話をしながらグループで協力して作ることができました。講師との交流に加えて、参加者同士の多文化交流もでき、楽しんでいただけたようです。

《基本情報》

- ・ベラルーシは、“白いロシア” という意味
- ・1991年にソ連から独立
- ・国旗の色の意味
 - 白：自由、純真、光を象徴
 - 緑：森林、生命を象徴
 - 赤：独立戦争で流された血を象徴
- ・面積：207,600km² (日本の約半分)
- ・人口：約926万人 (日本の7.4%)
- ・言葉：ベラルーシ語、ロシア語
- ・産業：農業（じゃがいも、ライ麦）
工業（機械、電器、石油化学）



▲ニヤシュヴィシユ国立歴史文化博物館
<https://belarusfacts.by/en/belarus/tourism/sightseeing/minsk/>



5か国に囲まれた国“ベラルーシ”
(出典 CIA World Factbook)



▲世界遺産 ビャウォヴィエジャの森
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Nesvizh_Castle_2011.JPG



▲世界遺産 ネスヴィジ城
<https://commons.wikimedia.org/wiki/File:BelarusBNP09.JPG>

《講師によるベラルーシの紹介》

- ・医療費は無料。外国人も安く医療を受けられるので、このためだけにベラルーシを訪れる人も。
- ・岩塩の採掘が盛ん。
- ・アイスホッケーが大好き。
- ・日本と似ているところも…(礼儀正しい、親切、勤勉、安全で清潔、美しい自然)
- ・川、湖、森林が多いため、“ヨーロッパの肺”と呼ばれている。
- ・日本同様、少子高齢化が進んでいる。
- …など、ベラルーシのあれこれを紹介しました。

講師のシゲモトさん
によるお話

【参加者の感想】

- ・いろいろな国の方と料理を作ることができてよかった。
- ・クレープ作りが日本と違って良かったけど、とてもおいしかった。
- ・他の国の文化を学ぶことは楽しかったです。

レシピ

“ベラルーシ”のクレープ(6枚分)

【生地の準備】

- ④(卵1個、砂糖大さじ1、バニラエッセンス小さじ1、塩少々)
牛乳200～250cc、小麦粉120g、サラダ油大さじ2、バター少々
- ①④をボールに入れて、混ぜる。混ざったら牛乳を半分入れて、混ぜる。
 - ②小麦粉を少しずつ入れて、よく混ぜる。
 - ③サラダ油を入れて、よく混ぜる。最後に残りの牛乳を入れて混ぜる。

【クレープの中身の準備】

カッテージチーズ200g、牛乳少々、砂糖大さじ1、卵1、バニラエッセンス少々をボールに入れて全て混ぜる。

【焼きます】

- ①フライパンにお玉1杯分の生地を入れて、中火で焼く。少し焦げ目がついたら裏返す。
- ②焼いたクレープを皿に広げ、クレープの中身を載せて棒状に巻く。
- ③フライパンにバターを入れ、巻いたクレープをもう一度焼いて完成!!



中にチーズが入った
ベラルーシクレープ



▲講師と一緒にクレープ作り

※国際理解ワークショップは、(公財)岐阜県国際交流センターの助成を受け実施しました。

次回は、11月に「コートジボワール」の紹介を予定しています。

4年ぶりにオレゴン州から高校生が大垣にやってきた!!

国際交流ボランティアグループ WING 会長 加藤 咲子

WINGは、大垣市のフレンドリーシティの米国オレゴン州（ビーバートン市・ユージン市）の高校生20名、引率者3名を受け入れ、4年ぶりに交流を再開することができました。今年で31回目となります。

6月23日から28日までの6日間、大垣市内を中心にホームステイしながら、茶道や浴衣の着付け等の日本文化体験、牧田小学校・大垣東高校訪問、大垣城や守屋多々志美術館見学のほか、ホストファミリーと一緒に歓迎会を通して、交流を深めました。

また、「第28回アメリカンセミナー—みんなで話そう—」を開催しました。大垣市の高校生による英語の、オレゴン州の高校生による日本語のスピーチを皮切りに、ホストファミリーや一般の参加者を交えたグループトークでは、お互いの国に対して興味を持っていることや文化の違い等についての意見が交わされ、交流の視野を広げることができました。

大垣市表敬訪問では、訪問団を代表し、マーガレットさんが「コロナ禍で3年前に渡航がキャンセルになった時は残念だったがやっと来ることが出来て嬉しい。大垣市との信頼関係がさらに深まることを願っています。」と日本語であいさつしました。

ホストファミリーの藤塚さんからは、「子ども同士すぐに仲良くなって、ゲストの部屋からアニメやゲームの話で盛り上がっている声がよく聞こえました。男の子3人で毎日一緒にお風呂に入って兄弟のようでした。息子に日本語で数学を教えている姿にびっくりしました。」という感想を寄せていただきました。

今回の受け入れにご協力いただいた方々、ホストファミリーの皆様ありがとうございます。

オレゴン州の高校生の皆さん！来年もお会いしましょう！大垣で！！



▲牧田小学校で書道体験



▲ホストファミリーと共に

外国にルーツを持つ子ども達への支援

大垣市まちづくり推進課 課長 宮内 幸三

厳しかった新型コロナ関連の入国規制も解除され、街で外国人の姿を見かけることが以前より多くなったと感じている方も多いことでしょう。実際、大垣市にお住まいの外国人は今年、十数年ぶりに6000人を超えました。

その中には日本で家庭を持っている方も大勢いますが、そうした家庭の子ども達の中には日本語があまり得意でない子もいます。また保護者も日本の教育制度には詳しくないなど、学校への不安を持っている場合が少なくありません。

そうした不安を解消し、外国にルーツを持つ子ども達が学校で楽しく学んでいけるよう、大垣市では様々な支援を行っています。

まず、小学校入学前の子どもとその保護者を対象に、日本語指導や学校に関する説明などを行うプレスクール「きらきら教室」を開催しています。

その内容は、大きく分けて「巡回指導」と「集団指導」の2つです。

巡回指導では、保育園などを講師が巡回し、子どもの日本語能力に応じて個別に語彙指導などを行います。

集団指導では年5回、子どもと保護者に集ってもらい、子どもには巡回指導の復習と学校生活への適応指導を、保護者には学校に関する説明会と相談会を行います。

全ての指導が終わった年度末、修了式が行われます。修了証を受け取った子ども達は、きらきら教室で身に付けた自信を胸に小学校へ入学していきます。

市内の小学校には、日本語がほとんど理解できない児童生徒のための「初期指導教室」と、初・中級程度の日本語指導を行う「日本語教室」があり、子ども達が日本語を学ぶことができます。

さらに授業中は、「多文化共生サポーター」というボランティアの方々が生徒の傍に座り、先生の話や教科書の内容をやさしい日本語に言い換えて理解を助ける活動も行っています。

学校の外でも、子ども達に日本語指導や宿題のサポートなどを行う「放課後支援教室」を開催しています。

そして中学校を卒業した後も、子ども達の進学や就職に繋がるよう、将来についての不安や悩みを相談できる体制を整えています。

このように大垣市では、外国にルーツを持つ子ども達に、小学校入学前から大人になるまで切れ目のない支援を行っています。大垣で育った子ども達が社会に出てから日本人と同じように活躍できることを願っています。



▲修了式で市長から修了証を受け取る子



▲子どもたちの宿題をサポート

多文化共生事業 ～日本語学習、日本文化体験～

日本語教室で日本文化体験

毎週日曜日に開催している日本語教室では、「日本語の学習」を通して、在住外国人と日本人の参加者がお互いを理解し合う機会となることを目指しています。今年度は、日本語の学習に加えて、日本の文化やあそびなどを通じた交流もしています。



福笑い

とてもおもしろい遊びでした。
家でもやってみたいです。



折り紙

折り紙で“かぶと”
を作りました。

にほんごおしゃべりルーム「七夕」イベント

7/2に「七夕」を紹介するイベントを開催し、紙芝居による七夕のお話の他、短冊に願いごとを書きました。



七夕の紙芝居



日本語学習支援ボランティア講座

(7/1～8/12 全5回、受講者19人)



在住外国人への日本語学習支援活動を始めるにあたって知っておきたいことを学ぶ講座を開催しました。

今後の予定

- 10/8 在住外国人のための神輿体験 (十萬石まつり参加)
- 10/13～12/8 英語基礎会話講座
- 10/22～12/10 ポルトガル語基礎会話講座
- 11月 国際理解ワークショップ (コートジボワール編)
- 12月 海外研修派遣団員の報告会
 - ・2日: 小・中学生 (中国、ベルギー)
 - ・16日: 高校生 (米国オレゴン州)
- 1月 在住外国人のための日本語教室 (レベル1、レベル2)
 - 韓国語基礎会話講座
 - 中国語基礎会話講座
- 3月 35周年記念事業「多文化交流会」
 - 機関誌「フレンドリー発行」
- 通年 マンツーマン方式日本語学習支援 (休館日を除き毎日)
 - にほんごおしゃべりルーム (毎週日曜日)
 - 在住外国人のための行政手続き相談 (毎月第1日曜日)
 - ポルトガル語によるこころの相談 (毎月第2日曜日)
 - 在住外国人のための法律相談 (毎月第4日曜日)
 - 在住外国人のための和服体験 (毎月1回)

大垣市在住外国人の国籍別人数表

総数:6,053人(国籍数:43)
前号(令和5年3月号)との比較 227人増

	令和5年8月末	前号(令和5年3月号) 2月末人数	前号(令和5年2月末) との比較
ブラジル	2,297	2,263	34
中国	1,111	1,086	25
ベトナム	789	703	86
フィリピン	613	565	48
韓国又は朝鮮	260	274	-14
その他	983	935	48
合計	6,053	5,826	227

総人口に占める割合 3.8%

編集後記

4年ぶりに、中国・邯鄲市への派遣が実現しました。待ち望んでいた再会に、市長様はじめ関係者の皆様から歓迎を受けました。
引き続き、9月はベルギー・ナミュール市、10月はアメリカ合衆国ビーバートン市、ユージーン市への派遣が決まっております。その様子は、次号97号に掲載いたします。次号は、盛り沢山の内容になるようです。
オレゴン州(ビーバートン市、ユージーン市)から高校生が、4年ぶりに大垣にやってきました。受入をされました WING の皆様、ありがとうございます。
国際理解ワークショップで、ベラルーシの紹介と食文化の体験がありました。ベラルーシは馴染みが薄い国のようなのですが、国旗は、ソ連から独立した当時の思いが込められた色で出来ているそうです。国旗には、その国の歴史が込められているようですね。
フレンドリーも、やっと、派遣・受入の記事が掲載できるようになり、嬉しい思いでいっぱいです。平穏な社会でありますように。

フレンドリー No.96

編集／公益財団法人 大垣国際交流協会 広報委員会
〒503-0911 大垣市室本町5丁目51番地
スイトピアセンター学習館2階
TEL(0584)82-2311 FAX(0584)82-2314
<https://www.i-oiea.jp/>
[E-mail]oiea@mb.ginet.or.jp



発行／2023年9月 印刷／サンメッセ株式会社 ホームページQRコード

